2023 年度　入学式　式辞

新入生の皆さん、ご入学、おめでとうございます。
本日、名古屋学院大学は、学部生 1,652 名、大学院生 28 名、留学生別科生 10 名、合わせて 1,690 名の新しい仲間を迎えることができました。ご列席いただいた皆さまとともに、大学を代表して心よりお祝いを申し上げます。御来賓の皆さま、本日は、ご多忙のなか、ご臨席いただきありがとうございます。また保護者・ご家族の皆さま、ご参列いただき誠にありがとうございます。ご子息・ご令嬢のご入学に、心よりお祝い申し上げます。

我々、教職員一同は、新入生の皆さんが、本学での学びを通して、社会の発展に貢献できる人財として成長できるよう、全力をあげて支援することをお約束いたします。

入学式は、新入生の皆さんを歓迎する式典であるとともに、皆さんにとっては大学時代のスタート地点であるわけですから、「大学で学ぶ」意味を確認する日でもあるのです。皆さんが今この場に座っている理由はひとつです。それは、自分を大きく「成長」させるため、つまり、自らの可能性を広げるために今ここにいるのだ　このことを、まずはしっかり心に刻んでください。

その上で、皆さんのご入学にあたり、ここで三つの話をしたいと思います。
一つ目は、本学の「建学の精神（けんがくのせいしん）」である「敬神愛人（けいしんあいじん）」について、二つ目が「大学での学び」について、そして三つ目が「夢を持つこと」について　です。

一つ目は「建学の精神」です。「建学の精神」という表現は多くの皆さんにとっては馴染みのないものかもしれません。これは、学校を創立する際の根底にある考えを表現したフレーズです。そして、キリスト教主義大学である本学の建学の精神は「敬神愛人」です。「神を敬い、人を愛する」と書きます。今から 136 年前の明治 20 年（1887 年）に本学に繋がる「名古屋英和学校」を建てたアメリカ人宣教師のクライン博士が選ばれた言葉です。「神を敬う」とは創造主に対する畏敬の念をもつことですが、学校という文脈に置けば、人は無知な存在であるからこそ、謙虚に学ぶことが大切である、教わる者も教える者も共に謙虚に学びなさい、という意味になります。そして後半の「人を愛する」とは、隣人愛、つまり他者に対して優しくあること、の意味あいを持ちます。本学のすべての者が、この言葉に向き合いながら、自分自身を人間としてさらなる高みに押し上げることを、クライン博士は願っておられたのだと私は解釈しています。
21 世紀にはいってから、IoT や AI など、テクノロジーの進展は目まぐるしく、時代は、我々が 20 世紀までに経験したことのないスピードで動いています。このような時代であるからこそ、我々は、我々自身に目を向ける必要が高まってきています。つまり、21 世紀中葉に向かう現代は、「人間」自身へと、その関心が向けられなければならない時代となっているのです。
人間とは何か、人はなぜ生きるのか、人にとって大切なものとは何か。このような根源的な問いかけに向き合う時代がやってきているということになります。
私は、建学の精神である「敬神愛人」はそれに向き合う姿勢を表しているものだと考えています。それぞれの学部において、現代の世界や社会と、そこに生きる人間を、掘り下げてゆく研究がなされ

ます。それらの研究が収斂するところが、この「敬神愛人」であるのです。それゆえ、この「敬神愛人」の意味するところを追求してゆくことこそが、名古屋学院大学に集う、我々の使命・ミッションであるわけです。

次に、二つ目の「大学での学び」というポイントに、話しを移しましょう。

大学は、教育機関、つまり「学びの場」ですが、今までみなさんが経験してきた小学校・中学校、高校とは次元が異なる「学び」の場所であるということをまずは理解してください。例えば、これまでの学校では同じクラスの生徒は同じ時間割で同じ科目を勉強してきました。大学では、同じ学部同じ学科でも、それぞれの学生が自分の関心に沿って学ぶ科目を決めていくので、自ずと時間割は異なってきます。さらに、これまでの勉強では、問題、解き方、解答がすでにそこにあるものをこなし、それによって記憶を強化していく作業、つまり「勉強」でした。しかし、大学は違います。大学では、問題を自ら見つけ、その解法を自ら探し、さらに、得られた答えがどこまで正しいものなのかといった検証まで、すべて自らの責任で行うことになります。つまり、「研究」です。高校までの「勉強」と大学からの「研究」、この違いをどれだけ早く認識することできるかが、みなさんがホンモノの大学生になれるかどうかの別れ道になります。大学には、高校までのような国が定める検定教科書というものはありません。世の中のあらゆることが研究テーマとなりえます。経済の問題、法律の問題、社会や文化に関する問題などから、人工知能（AI)、LGBTQ、人新世（ひとしんせい)、或いは、一年以上続くロシアのウクライナ侵攻の問題に至るまで、あらゆるものが研究の対象となります。研究は、自分の感じたことを言葉にする感想文でも、調べ学習の結果をまとめるレポートでもありません。研究においては、表面に現れる現象の、その奥に潜む真の問題に迫る必要があります。

ここで、研究のための２つの助言（チップス）をおくりたいと思います。

一つは、「自ら学ぼう」という意識です。つまり「学び」への働きかけの姿勢です。「教えてもらう」という受身的な姿勢では得られるものはありません。後部座席に座っていては、何も学べません。自らが、運転席（ドライバーズシート）に座ることから始まります。

もう一つは、学びのメタ認知です。メタ認知とは、自分のやり方を客観的に見つめる視点です。学んでいる自分を高いところから眺め、その学びの方法が適切なものであるのかどうかを検討するもうひとりの自分を持つということです。これら２つの TIPS を手がかりに、大学での学び、つまり研究に取り組み、今よりも高い地点からの景色を見ることができる若者へと、自らを進化させてください。

最後に、三つ目の「夢を持つこと」に移りましょう。

若者の特権は「夢」を語ることです。ぜひ、自分の夢を探し、その実現にむけてチャレンジして下さい。自分を高みに押し上げるその「夢」を目指して頑張ってみてください。

自分の可能性に自らリミッター（制限装置）を設ける必要はありません。先入観・未経験をあきらめる理由にすることはありません。初めて踏み出すときには、自信がないのは当然です。そうであるからこそ、夢に取り組むことができるわけです。

自分の夢を見つけるのには時間がかかるかもしれませんし、夢はそう簡単に手に入るものではありません。時に失敗する場合もあります。しかし、失敗は恥ずかしいことでも自分を卑下することでもありません。そこにこそ、「学び」のチャンスがいっぱい詰まっているのです。「あの時、やっておけばよかった」という後悔よりも、「やってみて色々なことがわかった、今回の経験を次に繋げていこう」、というポジティブな考え方を選べる学生であってください。

さぁ、みなさん、新しいステージの始まりです。
キャンパスには、皆さんと共に歩む先輩たちと、皆さんを応援する教職員がいます。
キャンパスの周りには、歴史・文化にあふれる魅力ある地域があります。
そして、キャンパスを越えたところには皆さんが活躍する未来が広がっているのです。
皆さんの可能性は無限大です。過去の失敗や未経験を恐れることなく、自らの「夢」を見つけ、その実現にむけてチャレンジする若者になってください。

みなさんが、本学で過ごされる大学時代が、実り豊かに人生を生きるための、大きな礎となることを願い、入学式の式辞とさせていただきます。
ご入学おめでとうございます！

2023 年 4 月 1 日
名古屋学院大学学長
赤楚　治之